

ハーバード大で学部またぎ 進化を研究

「人間の良心・愛とは？」 相互否定やめ対話へ



数理生物学とは、動物や人間の駆け引きをゲームに見立てる「ゲーム理論」に基づき、数学を駆使して生物進化の謎に迫る学問だ。

もし、世代交代を繰り返す中で、自分の利益だけを追求する「利己派」が衰え、互いに助け合



「地下鉄の線路に飛び降りて見ず知らずの他人を助ける行動は、科学でどう説明するのか」「神が完全なら、どうして進化に介入する必要があるのか」。米マサチューセッツ州にあるハーバード大学の優雅な教員クラブで定期的に開かれる屋敷会には、和やかな雰囲気の中にも緊張感が漂う。

テーブルを囲むのは、全米最古の神学部を持つ同大の権威サラー・コークリー教授、鋭い数理生物学者マーチン・ノバク教授ら、いわば神学と科学それぞれの代表者だ。キリスト教関連の研究を支援するジョン・テンブルトン財団(ペンシルベニア州)が提供した約200万円をもとに、「神が作った世界における進化」という珍しいテーマの共同研究が進む。

全米最古の歴史を持つハーバード大神学部の校舎



「神は進化に介入したが、そのタイミングや具体的な方法についてはまた合意ができていない」というモリスリー・ハーバード大研究者。神学の研究者になる以前は神経科学を学んでいた



「協調派」が栄えるという計算結果が出れば、究極的には動物の協力行動や人間の利他心が生まれ広がった理由を、

「協調派」が栄えるという計算結果が出れば、究極的には動物の協力行動や人間の利他心が生まれ広がった理由を、

「協調派」が栄えるという計算結果が出れば、究極的には動物の協力行動や人間の利他心が生まれ広がった理由を、

科学と神学

共存模索

だが、このような考え方に神学側は神経をとがらせる。共同研究に参加する大槻久・研究者(数理生物学)は「神学者は柔軟だが、議論が道徳心に及ぶと抵抗が強い」と語る。良心や愛は、宗教の最後のよりどころだからだ。

この共同研究に参加する神学者たちは、そう単純ではない。生命科学や宇宙論の進展で神の役割がどんどん狭まるなか、科学と整合性をとりながら神の「居場所」を確保しようとしている。

進化の連鎖を差配した」と公言してはばからない。ビッグバンから人間が誕生するまで、そのシナリオは神によって巧妙に操られているという考え方で、まさに科学と神が同居している。デオキシリボ核酸(DNA)の変異と淘汰に基づき生物進化はもろん否定せず、同時に、時空を超越した神の意志も認めるわけだ。



共同研究の参加者モリスリー・コリンズ米国立ヒトゲノム研究所長は、「神が人間に至る進化の連鎖を差配した」と公言してはばからない。ビッグバンから人間が誕生するまで、そのシナリオは神によって巧妙に操られているという考え方で、まさに科学と神が同居している。デオキシリボ核酸(DNA)の変異と淘汰に基づき生物進化はもろん否定せず、同時に、時空を超越した神の意志も認めるわけだ。



ハーバード大の大槻研究者。数式やコンピュータによる模擬実験などで、協力行動の由来を研究している

取材を終えて

神学が天敵の生物学と落しどころを探る試みに、最初は驚き、あきれた。しかし、科学技術大国アメリカのも一つの顔は宗教大

困。この大まじめな共同研究は、社会的にも必要

(山田哲朗)